

平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪府中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理 科	国語A	国語B	数学A	数学B	理 科
3 年	学校	91	69	57	55	37	56	4.8	4.7	6.5	21.1	7.5
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	89	46.7	42.6	52.2	49.5	50.6	20.5	5.0	11.3	9.2	4.5
	大阪市	—	51.6	48.1	56.7	56.5	56.2	16.9	4.6	10.5	7.2	3.8
9月6日	大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.3	3.6

3 大阪府中学校3年生統一テスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校	87	56.9	56.1	54.9	52.0	56.0
10月4日	大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

全国学力・学習状況調査について

【成果と課題】

〔国 語〕

平均正答率を全国と比較すると、A問題で7.1%、B問題で4.2%低い。また、A・B問題ともに、全領域で正答率が低い。特に、「書くこと」の領域において、正答率の低さが際立っている。また、平均無解答率はA・B問題ともに、全国平均の1.5倍を超えた。特に、短答式、記述式の問題における無解答率が高かった。難易度が高くなるにつれ、問題を解く意欲が乏しくなっていくことを表しているといえる。

〔数 学〕

平均正答率を全国と比較すると、A問題で11.1%、B問題で9.9%低い。また、A・B問題ともに、全領域で正答率が低い。特に、「資料の活用」の領域において、正答率の低さが際立っている。また、平均無解答率はA問題で、全国平均の2倍近くになっている。特に、短答式、記述式の問題における無解答率が高かった。文章を読み解く力のなさからか記述式の問題で初めから取り組めていない様子が見える。

〔理 科〕

1・2年生で学習した内容の理解について、定着の悪さが見られた。平均正答率を全国と比較すると、A問題で11.1%、B問題で9.9%低い。10.1%低い。特に、「化学」、「生物」の領域において、正答率の低さが際立っている。また、平均無解答率は、全国平均の1.5倍となっている。特に、短答式、記述式の問題における無解答率が高かった。文章を最後まで読む力や表現する力に大きな課題がある。

〔生徒質問紙調査〕

特に、放課後の時間の使い方に課題がある。「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の否定的な回答が全国で47.8%に対して本校では66.7%と1.4倍、「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(塾・家庭教師含む)」の全くしないとの回答が全国4.9%に対して本校では13.3%と2.7倍、「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」の全くしないとの回答が全国32.9%に対して本校では60%となっている。学校以外で勉強しない、全く読書を読まない生徒が多いことが課題として明らかになった。

【今後に向けて】

〔国 語〕

「書くこと」の領域において、正答率の低さが顕著に表れているため、作文などの課題を用いて、書く行為に対する苦手意識を克服させる。また、日々の授業の中で更なる理解を深める授業展開を行い、全領域での正答率を上昇させる。

〔数 学〕

授業での発問で単に答えを導きだすだけでなく、いろいろな角度から質問を行い、領域をこえてつながりを持たせることで短答式、記述式の問題における無解答率を低くする。また、復習プリントをチームティーチングで指導することにより、授業で得た知識を定着させる。

〔理 科〕

基礎・基本を押さえながら興味・関心を高めることのできる教材に取り組むことなど授業改善を行う。また、記述式の解答に弱い部分があるため、繰り返し演習を重ねながら、思考力・判断力・表現力を高める工夫を進めていく。

平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

中学生チャレンジテスト(3年生)・大阪市中学校3年生統一テストについて

【成果と課題】

〔国 語〕

平均点は下回っている。また、無回答率は高くなっている。書く能力の向上が見られた。

〔社 会〕

基礎・基本の定着が不十分である。さらに、複数の資料を読み取って答えるなど、応用力を問う内容ができていない。一方、公民的分野は比較的正答率が高い。

〔数 学〕

基本的な計算を中心に毎時間、復習してはいるが、結果は伴わずに平均点を下回った。

〔理 科〕

正答率が30%台に多数が分布しており、基礎・基本の定着が十分でない。

〔英 語〕

「外国語表現の能力」(37.4%)、「基礎・活用」(38.4%)において、大阪市平均との大きな差がみられる。解答形式

「選択」で最も高い得点率(66.0%)となっている。

【今後に向けて】

〔国 語〕

無回答を減少させるために、主体的に設問に取り組む時間を確保する。

〔社 会〕

基礎・基本の復習と資料を読み取る力を伸ばすための練習が必要である。

〔数 学〕

授業中はもちろん、放課後等を利用し、それぞれにあった補習を行い、学力を定着・向上させる。

〔理 科〕

基礎・基本の定着をさせるために復習や放課後に学習会を実施する。また、実験・観察の技能が低いのでパフォーマンステストを実施する。

〔英 語〕

設問によって差があるが、解答形式「記述」の無解答が各学級の1割強を占める。「外国語表現の能力」とともに英語を使ってコミュニケーション活動の場面設定を工夫し、生徒たちが意欲的に英語を使ってみようとする力を向上させ、学力の定着・向上につなげる。